

# 印刷新報 4月25日号に掲載されました。

## 意識の高い少数精鋭集団が新たな成長の礎に

荒井 慶太

株式会社日相印刷／日相出版取締役プランニングマネージャー  
神奈川県印刷工業組合 常務理事



私が印刷業界に入った

のは2014年7月です。事業承継のため、20年間勤めた塾・ミュージカル・飲食を経営するグループ会社からの転職でした。異業種への転職ということもあり、入社する前の3ヵ月間は、印刷業界、地域、自社のことについてできうる限り調査・研究を行いました。すでに業界のライフサイクルは、一定の淘汰が終わった状態の衰退期に

然でした。

入っており、既存のスタイルで成長や現状維持を続けていくのが難しいこととは明白でした。そこで、新たに「導入・成長期」を産み出すために、新規事業展開として多角化が事業転換を計画的に考え、着手することが必

り、ネットワークを生と考えています。そして、日常的に小さな相談が発生し、それを共に解決していく「ソリューション・プロバイダー」として、販路の拡大を生んでいます。新しい活動を

限られた人材と資金のため、これまでトリプルメディア戦略をベースにIT化の強化を図り、CSR、CSVに便宜上連動させて、教育・文化・福祉・経済の視点で、自社のブランディングと地域のブランディングの交点となる三方良しの商品・サービスを考え、活動してきております。

結果的には、小さな活動がブランディングになり、この「印刷業」、特に20名前後の中小零細企業にとって大切なことは、「少数精鋭で意識の高い集団」になることだ

とされています。そして、「小さな成長」に価値を置き、「幸せ」を感じられることが、これから持続可能な会社づくりの基盤となり、印刷業の新しい成長の礎になるのではないのでしょうか。そのためにも、意識の素を創り、それを継承していきける教育体制、仕組みづくりが今後の優先事項に思えてなりません。